

| | | | |
|-----------------|---|---|------------------|
| 事業名称 | 多様な個性でつなぐ地域の学び創造事業 | | |
| 実行委員会 | みえむプロジェクト実行委員会 | | |
| 中核館 | 三重県総合博物館 | | |
| | 住所 | 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060 | |
| | TEL | 059-228-2283 | FAX 059-229-8310 |
| | ホームページ | http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/ | |
| 構成団体 | 三重県教育委員会、三重県立盲学校、紀北町教育委員会、 三重県総合博物館 ミュージアムパートナー | | |
| 事業開始時点 の課題分析 | <p>南北に長く、山地で東西に隔てられてた三重県には、多様な地域に豊かな自然、歴史、文化が存在する。一方で、県民の多くがそれらの素晴らしさに気づかず、地域の宝として保全する意識や、生涯学習、あるいは観光など幅広い分野に使える資源としてとして活用する意識は必ずしも強くない。そこで、県民自らが、地元の自然、歴史、文化について能動的・主体的に学び、保全し、利活用してゆく仕組みを作ることが地域におかれた博物館の重要な役割として位置づけられる。</p> <p>広大な地域に人口が点在する地域に立地する三重県総合博物館は、県民の上記の主体的な活動を推進する上で課遠隔地の住民への対応が課題となっており、遠隔地でのアウトリーチのための手立てを必要としている。さらに、障がいをもった人たちを含め、多様な個性をもった人たちの誰もが能動的に参画できる仕組みの構築も大きな課題である。</p> <p>三重県の多くの地域では、少子高齢化や若年層の県外流出という地域の存続にかかわる現状の克服が大きな課題となっている。地域の豊かな自然と歴史・文化について、自ら集め、調べ、伝えるという能動的な経験をした子ども達は、地域の課題を克服し、未来を創成する大きな力を発揮してくれるとの期待も県民から寄せられている。</p> <p>そこで、中核組織として地域博物館である三重県総合博物館が地域の教育機関と協働することで、能動的に地元の自然や歴史・文化を深く調べ、活用する多様な人たちを育て地域の学びをつむぐことは、三重県のみならず日本の多くの人口点在地域における地域博物館の新たな役割を示すことになる。また、このような活動を通じて、大型展覧会に注目が集まる中、博物館の基幹機能である収集・保存、調査研究、展示・教育普及について国民の理解を深めることにもつながる。</p> | | |
| 事業目的 | <p>本事業の目的は、三重県内の教育機関が連携し、三重という地域の多様性が有する価値を見つめ、その面白さを多様な人へ伝えるとともに、地域博物館が果たすべき社会的役割を探究することである。</p> <p>そのために、身近な地域の自然や歴史・文化について、地域の未来を担う子どもたちとともに、ひとりひとりが興味を持ったものを博物館の機能である「集める・調べる・伝える」という3つの活動を通じて探究するアクティブラーニング活動を実施する。この活動をもとに、三重の魅力が詰まったアウトリーチキットの試作を行う。この際、五感を活用した学習が効果的であることから、三重県立盲学校の協力を得て、「みる」だけでなく「さわって学びを深める」ことを目指し、インクルーシブデザインによって実現する。</p> <p>さらにユニバーサルデザインの観点から、三重の豊かな自然と歴史・文化について、博物館の遠隔地や外国語使用者などという壁に捉われず、ひとりひとりが自らの学習を深めることができるよう、多言語対応ホームページの整備を行う。</p> | | |

| | |
|----------------------------|--|
| <p>事業概要</p> | <p>(1) 博物館の「集める・調べる・伝える」という機能を通じて、地域の子どもたちと共に三重の多様性を探究するアウトリーチプログラムの実践</p> <p>(2) 五感を活用した学習を可能にする三重県立盲学校と協働したアウトリーチキットの試作</p> <p>(3) 様々な人が博物館の持つ情報にアクセスできるようにするための多言語対応ホームページの整備</p> |
| <p>実施項目 ・ 実施体系</p> | <p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p>□イ ユニークベニューの促進</p> <p>■ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p>□エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p>■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p>□ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p>□ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p>□イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p> <p>(実施項目・体系)</p> <p>1. 事業全体の方針と成果</p> <p>(1) 事業全体の方針と総括</p> <p>(2) 事業報告リーフレットの作成</p> <p>2. 【事業1】アウトリーチプログラムの実践</p> <p>(1) プログラムの実践</p> <p>① 事前打ち合わせ</p> <p>② 事前打ち合わせ</p> <p>③ プログラムの実践</p> <p>④ プログラムの成果発表</p> <p>3. 【事業2】アウトリーチキットの試作および調査</p> <p>(1) アウトリーチキットの方針の検討</p> <p>(2) アウトリーチキットに関する調査</p> <p>① 先進事例の訪問による実地調査</p> <p>② キット制作に向けた現地調査</p> <p>(3) アウトリーチキットの試作および調査</p> <p>① アウトリーチプログラムの実践成果の反映</p> <p>② 試作したアウトリーチキットの制作途中評価</p> <p>4. 【事業3】三重県総合博物館情報の多言語化</p> <p>(1) 多言語ホームページの作成</p> |

【事業1】では、三重県教育委員会および紀北町教育委員会との連携により、中核館である三重県総合博物館の館職員によるアウトリーチプログラム（出前授業等）を実施することができた。今回の実践先は、三重県立盲学校（以下、盲学校）と、紀北町立紀北中学校（以下、紀北中）の2校である。各校での実施結果は、下記の通りである。

盲学校（小学部児童：9名）

7/3（火）：事前授業、9/25（火）：口頭発表、11/10（土）：文化祭での展示

紀北中（1年生：44名）

7/2（月）：事前授業、10/5（金）：口頭発表、11/18（日）：文化祭での展示

盲学校では、夏季休暇中の課題として、「身近にあるさわって面白いモノさがし」に取り組んでもらい、学内での口頭発表のほか、点字及び墨字の解説文を作成して校内文化祭で成果発表を行った。盲学校教員ときめ細やかに連絡調整を行うことで、児童ひとりひとりの個性に合わせて学習を進めることができた。参加した児童は4年生から6年生で、視覚障がいや重複障がいの有無など様々だったが、各自が自分なりの方法で友達とコミュニケーションをとりながら、さわって自分の世界を広げることができた。

紀北中では、夏季休暇中の課題として、「紀北町の魅力調べ」として、地域で収集した資料に解説を加えた展示ボックスの作成を行った。学内での口頭発表を経て、文化祭でひとり1箱を展示し、博物館の「集める・調べる・伝える」という機能を体験してもらった。生徒ひとりひとりが、改めて自分の住む地域を見つめ直すきっかけとなり、また発表や展示を通じて他者の視点から見た地域の魅力にも気づくことができた。また、参加者の生徒へのアンケートでは、「博物館は地域の自然や歴史・文化を学ぶのに大切だと思いますか？」との問いに、69%が「そう思う」と回答した。（表1）

実施後の
成果・効果等

【事業2】では、上記の盲学校及び紀北中との取組を通じて、三重県南部の東紀州地域を中心に、三重県の自然と歴史・文化について、触覚や嗅覚など五感を活用したアウトリーチキット（以下、貸出キット）の作成を試みた。貸出キットの作成や運用方法について、全国の主に県立館の事例をインターネット等で網羅的に調査し一覧表にまとめるとともに、いくつかの事例について訪問調査を行った。その結果、三重県全体を把握することができる航空地図や触地図のほか、県内の植生や林業について学べる樹種教材、伊勢参りや熊野詣に代表される三重県にゆかりの深い「旅と街道」についてのタペストリーやすごろく等を試作した。また、三重県内の歴史・文化を楽しみながら学べる「ふるさと三重かるた」を、事業1での触感に関する児童のコメントや、紀北中生の調査で町の魅力に挙げられた尾鷲ヒノキのエピソードをふまえた上で、貸出キットとしての耐久性を考慮して木製で作成した。あわせて、博物館の収集・保存や展示・教育普及といった機能に対する学習を目的に、VR（バーチャルリアリティ）を活用した映像教材を作成した。

【事業1】及び【事業2】の成果発表として、以下の展示を行った。また、①及び②では、三重県総合博物館ミュージアムパートナー ユニバーサルミュージアムグループと協働して、触察で岩石・鉱物について学ぶ「さわって石をみわけよう」を関連事業として開催した。

①平成30年11月10日（土）

移動展示「さわってみるミュージアム」（三重県立盲学校）観覧者数：113名

②平成31年2月23日（土）・24日（日）＜22日（金）：紀北中内覧会＞

移動展示「たんけん！はっけん！紀北町」（紀北町東長島公民館）観覧者数：357名

③平成 31 年 3 月 2 日（土）～31 日（日）

ミニ企画展「博物館の舞台ウラ～新着資料が活用されるまで～」(三重県総合博物館)

観覧者数：2,860 名 (3/31 時点) ※ミニ企画展は 4 月 5 日（金）まで開催

特に、②では、博物館の遠隔地である三重県南部の東紀州地域や、伊勢志摩地域の方に多くご来場いただくことができた。(表 2) 満足度も、「満足」「やや満足」をあわせて 98%と非常に高かった。(表 3) また、中核館である三重県総合博物館の展示(移動展示を含む)を初めて観覧した方の割合は、59%と半数を超えており、博物館の知名度を効果的に高めることができた。(表 4)

【事業 3】では、三重県総合博物館ホームページを、英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語の 5 か国語に翻訳し、新たな外国語ページを作成した。各ページの URL は、下記の通りである。

英語 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/index-e.htm>

中国語 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/index-c.htm>

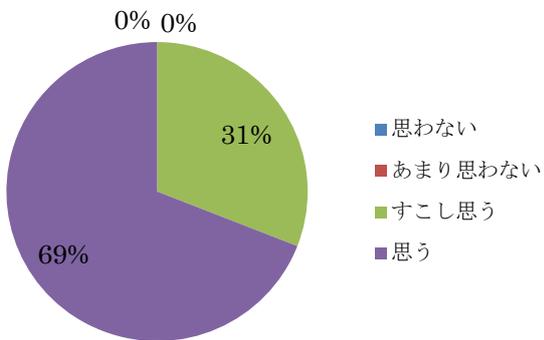
韓国語 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/index-k.htm>

スペイン語 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/index-s.htm>

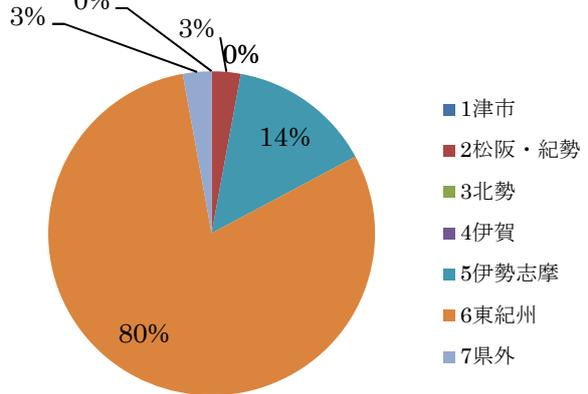
ポルトガル語 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/index-p.htm>

【事業実績】

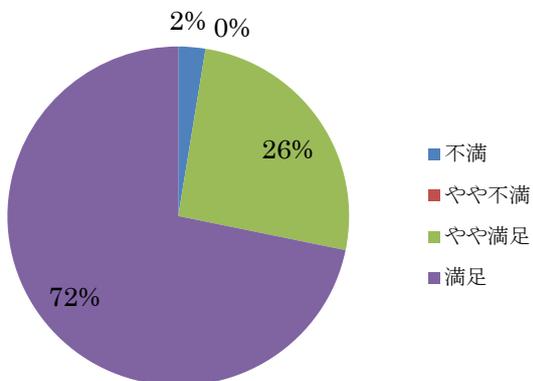
(表 1) 地域を学ぶための博物館の重要性



(表 2) 観覧者の居住地



(表 3) 観覧者の満足度



(表 4) 三重県総合博物館の展示(移動展示を含む)を見た回数

